令 和 ６ 年 度　　学 校 経 営 計 画

１　学校教育目標

農の心を伝承する。
花を呼び寄せ、資質を磨く。
培った成果を発信する。

校　　訓	叡　知　　感　性　　畏　敬

２　学校の特色

本校は、昭和２６年に富山県立出町高等学校若林分校として若林中学校に併設され、開校した。以来農業教育の専門高校として、地域の要望と期待に応え、郷土の農業を担う多くの人材育成に努めている。平成７年からは生涯学習社会に対応し、地域社会と連携した３つの学習機能（小矢部園芸高校、園芸カレッジ、園芸学習センター）の充実を図り、園芸科と専攻科園芸科を有する学校として歩んできた。

定時制の課程 園芸科 昼間単位制

園芸に関する基礎的・基本的な知識と技術を学び身に付けるために、園芸に関する選択科目も含めて幅広く農業について学んでいる。また、各種資格取得・検定に取り組み、増加単位として認定している。

インターンシップでは、県内の委託実習の勤労体験学習を行っている。

また、日本学校農業クラブ連盟の各種競技会・各種発表会や定時制の体育活動・高文連活動において全国大会にも毎年出場し、成果をあげている。

専攻科 園芸科

園芸系列と造園系列を設置し、幅広い年齢層の方々を対象とし、それぞれの専門分野における知識・技術について学ぶとともに、生涯学習の一端を担っている。

園芸学習センター

地域住民に園芸相談を行っている。

３　学校の現状と課題

（１）現状

本校生徒は課題研究や農業実習など体験的な学習を通して、野菜、草花、造園に関する技術や生産・経営面について学習している。生徒は素直で黙々と頑張る反面、やや消極的な面が見られるので、何事にも積極的に挑戦するよう、資格取得や各種大会出場を重点課題におく。

（２）課題

① 基礎学力の向上及び資格取得
② 農業教育の充実・発展
③ 基本的生活習慣の確立

4　学校教育計画

項　　目		目標・方針及び計画	
（1）	校務運営	目　標	・運営組織の活用を図り、適切・円滑な学校運営を目指す。
		計　画	・校務の各分掌相互の連携を密にし、校務運営委員会、各種委員会、職員会議等をとおして全職員の共通理解を深め、学校の活性化を図る。
（2）	教育課程	目　標	・新学習指導要領を踏まえ、生徒の実態及び学科の特色を活かした教育課程を編成する。
		計　画	・基礎・基本を重視しながら学力の向上を図る。 ・多様な生徒に応じた適切な指導法を研究する。 ・先端技術を積極的に取り入れた専門科目や、草花・野菜・造園の３系列を設ける。
（3）	学習活動 重点１	目　標	・学習習慣を身に付け、基礎学力の定着を図るとともに、それらを活用する能力を養う。 ・生徒の実態に応じたわかる授業の実践を通して、学問に対する探究心を育成する。
		計　画	・資格取得を奨励し合格に向け学習させることで、学習習慣の定着と学習意欲の向上を図る。 ・長期休業中に課題図書を出し、読書や感想文を書く機会を増やす。 ・互見授業、研修会、ICT の活用等をとおして授業の改善を図る。 ・学習の手引きを活用し、目標をもって生徒が学習できるようにする。
（4）	特別活動 重点２	目　標	・集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。
		計　画	・時間厳守を指導の重点に置き、**基本的生活習慣の確立**を図る。 ・全校生徒への呼びかけ・声かけ及び活動掲示板の活用などにより、**ボランティア活動を推進**する。 ・地域の環境美化整備活動を行う。
（5）	進路支援 重点３	目　標	・全生徒の希望に沿った進路の実現を図る。
		計　画	・個別面接の機会をとおして**進路意識を高め**、望ましい人生観や職業観を身に付けさせる。 ・個別指導（面接、小論文指導）により**進路実現に必要な能力を養成する。**
（6）	学校生活 重点４	目　標	・自らの命を大切にし、他の命とともにより健康に生きようとする意欲を育てる。 ・特別な教育的支援が必要な生徒の早期発見に努め、全教員で支援に取り組む体制を確立し指導にあたる。
		計　画	・定期的に生徒保健委員会を実施し、委員会活動の見直しを行い、活動を充実させることにより、生徒の**健康増進**と**環境美化**への意識を高める。 ・**教育相談**連絡会を定期的に開き、教職員の共通理解を図る。また、スクールカウンセラーや関係機関等の助言の下、**特別支援教育・教育相談の充実**を図る。
（7）	学習活動 （専門教科） 重点５	目　標	・農業の各分野における様々な学習、体験等や研修会を通し、専門教科を学ぶことの楽しさや自信をもたせる。
		計　画	・資格・検定取得は、教科内実習・農業クラブ活動等と連動させて計画的に指導するとともに、**農業学習への意欲の向上**を図る。 ・教科内実習や保護者面談をとおして、生徒及び保護者に**積極的にインターンシップ等に参加**するように促す。

５　今年度の重点課題（学校アクションプラン）

<table>
<tr><td></td><td colspan="2">令和６年度　小矢部園芸高等学校アクションプラン　－１－</td></tr>
<tr><td>重点項目</td><td colspan="2">学習活動</td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td colspan="2">基礎学力の向上と授業改善</td></tr>
<tr><td>現　　状</td><td colspan="2">・学習の基礎となる「読む」「書く」「計算する」力が十分ではない生徒がみられる。
・学力や学習意欲の個人差が大きく、集中力が持続しにくい生徒がいる。
・観点別評価と評定と評点の規準について、教員側も生徒や保護者等側も正しく理解していない心配がある。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">達成目標</td><td rowspan="2">①生徒の基礎学力の実態に応じその定着をはかるため、ICT の活用を推進する。評価方法について情報を共有する。</td><td>②生徒の授業への満足度</td></tr>
<tr><td>８０％以上</td></tr>
<tr><td>方　　策</td><td>・教育課程委員会や教員間の情報交換会を通して、個々の生徒の授業態度や特性、支援方法などについて共通理解を深める。
・全ての生徒にとって分かりやすい授業づくりを推進するため、実態を把握しユニバーサルデザインの考えを取り入れた授業づくりを進める。
・ICT 活用やユニバーサルデザイン化を推進するための研修会を５回程度実施する。</td><td>・全生徒へ授業や学習についての実態把握のためのアンケート年間に２回程度実施し、結果を授業に生かす。
・互見授業を通して教員間で授業技術の向上をはかったり学習教材の精選や指導方法の工夫に活かす
・互見授業期間を設定し教員だけでなく保護者等へも授業が参観できるよう告知する。</td></tr>
</table>

（評価基準　Ａ：達成した　Ｂ：ほぼ達成した　Ｃ：あまり達成しなかった　Ｄ：達成しなかった）

	令和６年度　小矢部園芸高等学校アクションプラン　－２－	
重点項目	学校生活・特別活動	
重点課題	基本的な生活習慣の確立及びボランティア等校外活動の推進	
現　　状	・基本的生活習慣が確立されていないまま、曖昧に過ごしている生徒が少なからず見受けられる。これまでの継続した指導のおかげで、令和３年度に遅刻回数について初めて目標を達成、大幅に改善されたこともある。しかし、再び目標を達成されなくなったため、継続して指導していきたい。 ・地域と密着したボランティア活動として、本校の特色をいかした花プランター配布社会福祉施設などでの雪吊り・雪囲い等の緑地管理ボランティアを行なっている。また長年、全校生徒で年２回実施している「清掃美化活動」については、地域への貢献や奉仕の精神に関心を持たせる恒例行事として定着してきた。 また、これまでの数値目標については、コロナ禍であっても達成されてきたので、目標数値を一人あたり０．５回さらに高く設定することとした。	
達成目標	① 年間遅刻回数	② ボランティア活動参加回数
	全生徒で延べ１００回以下	一人あたり３．５回以上
方　　策	・時間を守り、挨拶が自然に交わせるような学校の雰囲気づくりに努める。 ・登校時早朝指導を随時実施に切替え、個別指導に重点を置き、また、遅刻防止と共に挨拶や服装指導も含め、声かけの機会を多く設け、習慣付けを図る。	・全校生徒への積極的な呼びかけ、声かけと共にボランティア活動の積極的 PR に努める。 ・各種研修会への積極的参加を促す。 ・地域に密着した環境美化整備活動の推進。

（評価基準　Ａ：達成した　Ｂ：ほぼ達成した　Ｃ：あまり達成しなかった　Ｄ：達成しなかった）

令和６年度　小矢部園芸高等学校アクションプラン　―３―		
重点項目	進路支援	
重点課題	進路意識の向上と進路実現に必要な能力の育成	
現　　状	・小規模校のため、１・２学年上の生徒数が少なく、具体的な将来像が描きにくい。 ・将来の進路に対する意識が漠然としており、目標を設定することに困難を感じる生徒がいる。 ・進路実現に必要な基礎学力や基本的な生活習慣が身についていない生徒がいる。 ・コミュニケーション能力等、社会人として必要な基本的能力が不十分な生徒がいる。	
達成目標	① 個人面接の実施回数 ＊生徒一人あたりの年間の回数とする。	② 進路希望実現率 ＊対象生徒は進学及び就職を希望する者とする。
	１・２年次生　　５回以上 ３年次生　　１０回以上	１００％
方　　策	・個別面接の機会を増やし進路意識の高揚を図ると共に、望ましい人生観や職業観を身に付けさせる。 ・日頃の授業を大切にし、基本的な礼儀の定着と、基礎学力の向上に努めさせ、適切な進路の選択を支援する。	・進路特別講座、企業訪問、学校見学を通し、具体的に進路先について考えさせる。 ・個別指導（面接、小論文、作文指導等）を通して、進路実現に向けた適切な指導を行う。 ・就職支援機関･保護者との連携を図る。

（評価基準　Ａ：達成した　Ｂ：ほぼ達成した　Ｃ：あまり達成しなかった　Ｄ：達成しなかった）

令和６年度　小矢部園芸高等学校アクションプラン　―４―		
重点項目	学校生活	
重点課題	基本的生活習慣・教育相談	
現　　状	・家庭環境や友人関係などさまざまな悩みを抱えていることで、身体の不調や心の不安定を訴えたり、スマートフォンやゲームの長時間使用などで基本的生活習慣が乱れていたりする生徒が多く見受けられる。 ・専門家の支援を要する生徒が複数いる一方で、全教職員で指導支援の体制がまだ十分に確立されていない。	
達成目標	① 生徒保健委員会活動などを通して、生徒の健康や環境美化意識の向上を図る。	②スクールカウンセラーや特別支援教育巡回指導員の面談指導を充実させることで、生徒の心の成長を図る。
	・生活調査を実施し、改善が必要な生徒に保健指導を行い、基本的生活習慣を整える。また生徒保健委員会の開催により健康への関心や知識の向上を図る。 年５回以上開催	・スクールカウンセラーや特別支援教育巡回指導員による面談の実施後に、当該生徒、保護者等に対して、満足度をインタビュー形式で調査する。 満足度７０％以上
方　　策	・機会をとらえて、人間関係づくり、身だしなみや生活習慣など心身に関わるテーマで、グループ指導や個別指導を実施する。 ・委員会活動を通して健康や美化活動に関心を持たせ、生活習慣の確立を目指す。	・スクールカウンセラーや特別支援教育巡回指導員の助言を参考に、教職員と家庭との連携を深め、適切な支援を行う。 ・職員会議後定期的に教育相談連絡会（年６回程度）を実施し、全職員の共通理解を図る。

（評価基準　Ａ：達成した　Ｂ：ほぼ達成した　Ｃ：あまり達成しなかった　Ｄ：達成しなかった）

令和６年度　小矢部園芸高等学校アクションプラン　―５―		
重点項目	学習活動（専門教科）	
重点課題	農業学習の意欲向上	
現　　状	・資格・検定に興味や関心を持つ生徒が若干増加傾向にある。 ・農業クラブ農業技術検定、日本農業技術検定、危険物取扱者試験、造園技能士（３級）等の資格取得の取り組みと授業との連携が希薄である。 ・農業教科及び校内スマート農業研修会に興味や関心の持つ生徒が増えてきている。	
達成目標	①農業・園芸関連の資格や検定の受検者数と取得資格数の増加と合格率の向上	②県内委託実習（インターンシップ）や校外での農業に関する販売実習、研修会の実施
	・危険物取扱者資格取得　３名以上 ・造園技能士　３名以上 ・日本農業技術検定　５名以上 ・農業クラブ技術検定　延べ２０名以上 ・農業クラブ県大会入賞　２名以上 ・農業クラブ全国大会入賞　２名以上	・県内委託実習　２名以上 ・就農青年育成懇談会　５名以上 ・中学校、商店街等の販売実習　２回以上 ・県農教振本部事業　３名以上 ・校内スマート農業研修会　年３回実施 ・校内刈払機安全教育研修会　年３回実施
方　　策	・資格取得の必要性と受検意欲を高める。 ・年間の資格・検定取得について示し学習させる。 ・教科内実習・農業クラブ活動・補習等と連動させて計画的に指導する。	・教科内実習や面談をとおして生徒及び保護者に積極的に参加するよう促す。 ・農業体験ができる環境を整え、参加できる機会を増やす。

（評価基準　Ａ：達成した　Ｂ：ほぼ達成した　Ｃ：あまり達成しなかった　Ｄ：達成しなかった）